

可食性インクのパイオニア

加工工程のマーキングで対策提案

ユニオンケミカル

プリンター用のサプラに「可食性インククラブ」もイ品や複写関連用品などの製造・販売を行うユニオンケミカル（大阪府枚方市）は可食性インクのパイオニアとして、単なるサプライメーカーにとどまらず、商品の試作からインクの選定・開発、商品に応じたプリンターの選定まであらゆる要望に応える可食性インクのプロフェッショナルだ。

16年にはソリューションページ「フードプリンター・インク.com」を立ち上げると共に、本社内

に「可食性インククラブ」も設置。食品や医薬品、装置メーカーなど、可食性インクに興味をもつ企業を招いて、同社取り組みの紹介や試作品の開発・試験を行っている。「基本的なニッチな業界だが、フットワーク軽くあらゆる角度から相談に応じており、マーケットの需要も理解している」（同社）。

食品添加物メーカーとタッグを組んでいるのが同社の強みだ。添加物メーカーの専門知識と技術、印刷の専門家として

の同社の発想力と技術力で、発色性や速乾性、高速印刷対応など、印刷のノウハウがないと解決できない多種多様な事例に対応。鮮やかなイラストや文字をプリントすること

で付加価値を加える。また、体内に入っても無害なため、異物混入対策としての使用にも積極的だ。例えば鮮魚や精肉などの加工工程で使用しない部位や不良部位にマーキングするほか、食品トレーサビリティの観点から、加工工程で一部可食プリントを使用するなどの使用法を提案。可食

性インクを使うことで、より安全・安心を担保できることをアピールする。「食にまつわる分野のマーキングは安全なものを使用する必要がある。当社としては気付きの提案を積極的に進めていきたい」（同社）。

このほか、食器用器具・容器包装に関するポジティブリストの導入や環境配慮型の生分解ストローの使用の増加に伴い、ストローや割り箸といった口が接するキッチン雑貨用品に使用するための需要も増加しているという。「今後、食品関係の業界で可食性インクの需要が減ることはないと考えられる。長い年月のノウハウをもつ当社のインクの認知度をより広げていきたい」（同社）としている。

